

■日本小児神経外科学会役員選挙について

一般社団法人日本小児神経外科学会第2期理事の立候補者を公示します。

なお、役員選挙の投票期間は2019年3月15日から4月15日（事務局必着、郵送による）とします。

2019年2月20日

一般社団法人日本小児神経外科学会

理事長 坂本博昭

総務委員会担当理事 長坂昌登

【新任理事候補】（立候補順）

氏名 赤井 卓也	所属 富山大学脳神経外科
抱負	
<p>日本小児神経外科学会理事として成りたい仕事は、1)日本の小児神経外科治療の現状把握と世界への発信、2)小児神経外科認定医制度の発展、3)小児神経外科の次の世代への継承です。</p> <p>本邦では、小児神経外科を必ずしも専門としない施設でも小児神経外科手術が行われており、小児神経外科疾患の発症頻度、手術年齢・方法、治療予後などが必ずしも明確でありません。そのため、欧米からの報告に基づいて、その疾患の発症頻度を述べ、手術方法を選択するときの参考にしています。しかし、日本人は欧米人とは遺伝的背景、環境因子も大きく異なります。そこで、日本人に最適な治療法選択には、本邦での各疾患の発症頻度、診断・治療データを解析することが必要です。脳神経外科学会に登録しているデータベースがその資料となりますが、解析の実務は日本小児神経外科学会の重要な仕事と考えます。また、その解析結果を日本の小児神経外科治療の現状として世界に向けて発信していきたいと考えます。</p> <p>本邦には、脳神経外科専門医取得過程で小児神経外科領域に特化した教育プログラムはありません。2016年に国民に信頼される医療を提供することを目的に日本小児神経外科学会認定医制度が発足し、これまで約150名の認定医が誕生しました。小児神経外科認定医も限られた臨床経験とアカデミックワークをもとに判断しています。師田理事に引き継ぐかたちで認定医委員会委員長を拝命していますが、脳神経外科専門医が小児神経外科認定医を取得する意義が確立しているとは言えません。これからは、小児神経外科学会が主導した認定医のためのcontinuing education programなどを通して、認定医が最新の知識・技術を習得し、それを国民に提供できるようにしたいと考えています。その積み重ねが小児神経外科学会認定医の信頼につながり、これを取得するmotivationになると思っています。</p> <p>小児神経外科領域は希少疾患が多く、各個人が経験できる症例に限りがあります。そのため、各自の経験を次の世代へと継承し、新たな知識・技術と融合させることで、より良い治療が実践されていくものと考えます。そこで、先達たちの経験を共有する機会を小児神経外科学会として提供していきたいと考えています。</p>	
推薦者（伊達 勲、師田信人）	

氏名 埜中 正博	所属 関西医科大学脳神経外科
<p data-bbox="260 309 316 342">抱負</p> <p data-bbox="300 405 1353 770">この度、私、埜中正博は小児神経外科学会の理事に立候補する決意をいたしました。当学会の発展に邁進することを使命と感じ、これまで以上に貢献する所存です。私は2002年より故山崎麻美先生の指導の下、小児神経外科に本格的に携わるようになりました。以降は今日に至るまで水頭症、神経管閉鎖不全、小児脳腫瘍を中心とした小児神経外科領域の疾患の診療に携わって参りました。小児神経外科学会の学術集会には1995年に初めて参加して以来、近年は欠かさず参加しています。学会活動を通して学会の諸先輩方の暖かいご指導のおかげでこれまで多くのことを学ばせていただきました。</p> <p data-bbox="300 786 1353 1249">小児神経外科学会の中では、これまで渉外委員会、学術研究委員会、また機関誌「小児の脳神経」の副編集委員長を拝命し、活動して来ました。学術研究委員会では委員長を拝命しました。その間、臨床効果データベース事業、AMED 嘉山班のシャントレジストリー事業に関わらせていただきました。この事業に関わったことから、学会として複数の施設による共同研究をどのように進めたらよいのか、また研究を進めるために日本脳神経外科学会とどのように連携していくのかを学びました。また、「小児の脳神経」では多くの論文を査読する機会を与えてもらえました。それぞれの著作物の独創的な点のみならず、教育的な部分を充実させるために、どのように著者の方々にご協力いただけるのかを考える貴重な体験をさせていただいております。</p> <p data-bbox="300 1265 1353 1585">これからますます少子高齢化が進むわが国では、小児の診療に携わる脳神経外科医が経験できる小児の症例数は限られてきています。以前のように経験から学ぶことは困難となってきたため、一定の技術的な水準を保証するために当学会でも技術認定制度が発足しています。この制度をしっかりと下支えするためには、様々な手術手技、検査法、手術の適応に対する考え方を整理して、診療ガイドラインを策定することが重要だと思います。ガイドライン作成に向けて学会が一致団結して取り組めるようにしたいと思います。</p> <p data-bbox="300 1601 1353 1823">また海外では、多施設共同研究による新たな知見が多く得られていますが、日本でも当学会が主導する形で研究の推進も推進していく必要があると考えています。先にも述べたAMED 嘉山班のシャントレジストリー事業以外にも、学会員、特に若手から優れた研究計画の提案をしてもらい、その研究が推進できるような仕組みの構築を目指していきます。</p> <p data-bbox="300 1839 1353 2018">私が理事になる機会をお与えいただけましたら、理事長の指導の下、他の理事、監事の方々と協力し、学会員にとって会員になってよかったと思えるような魅力のある学会としてますます発展できるように力を尽くしますので、ご協力、ご支援をいただければ幸いに存じます。</p> <p data-bbox="959 2033 1353 2063">推薦者（坂本博昭、新井 一）</p>	

氏名 栗原 淳	所属 埼玉県立小児医療センター脳神経外科
<p>抱負</p> <p>本学会の法人化後、第1期の総務委員長として、様々な角度から学会運営を経験させていただき、学会運営の実情と今後の課題について勉強させていただきました。本学会の目的は「小児神経外科学の発展とその関連医学の進歩を促進し、小児神経外科に関する教育と訓練の充実に努め、また、本法人を通じて国民の健康と福祉の増進に寄与すること」であります。小児神経外科疾患は希少疾患が多いため、本邦では一部の地域では小児病院に患者様が集約されているものの、多くは大学病院や地域基幹病院で対応しているのが現状であります。</p> <p>このため標準的な治療を維持し発展させるには本学会を通じて小児神経外科診療に携わる皆様と情報を共有し協力し合う必要があります。この様な実情を考慮しますと本学会の運営には大学病院と小児病院の連携が重要であると考えます。そこで私は小児病院での診療経験と総務委員長としての経験を生かして、本学会の運営に寄与させていただきたいと考え立候補いたしました。</p> <p style="text-align: right;">推薦者（白根礼造、師田信人）</p>	

※年齢は2019年4月1日現在

【信任理事候補】（五十音順）

理事	重田 裕明	長野県立こども病院脳神経外科
理事	下川 尚子	佐賀大学医学部脳神経外科
理事	白根 礼造	宮城県立こども病院脳神経外科
理事	伊達 勲	岡山大学医学部脳神経外科
理事	藤井 幸彦	新潟大学脳研究所脳神経外科
理事	師田 信人	北里大学医学部脳神経外科